

単元名 これからの工業生産とわたしたち

氏名： 一條 秀俊

学校名：札幌市立伏古小学校

担当教科： 小学校

実践教科： 社会

時間数： 4時間

対象学年： 5年生

人数： 32名

学習領域

	1	2	3	4	関連するSDGs
A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生		
B グローバル社会	相互依存	情報化			
C 地球的課題	人権	環境	平和	開発	
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		






【実施概要】



【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

ひとつの村をモデルとし、環境問題などの多くの課題がある中で、持続可能な社会を目指し、産業の発展や自分たちの持続可能な社会のあり方を考えられるようにする。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	これからの工業生産の発展や持続可能な社会の実現について考えようとしている。
	(イ) 思考・判断・表現	現代のグローバル社会の問題について、自分事として捉え、思考・判断したことを表現している。
	(ウ) 技能	写真、現地情報などの資料を活用して、工業の現状や課題について必要な情報を読み取っている。
	(エ) 知識・理解	工業生産の現状とグローバル社会の課題について理解している。

【3】 単元設定の理由	<p>本学級の児童は学習にまじめに取り組むが、課題に対する自分の考えをもつことや、学習問題の答えを自分で考え、表現することが苦手だと感じている児童がいる。また、中国や韓国など他国の文化や生活についての理解不足や誤解を感じることもある。</p> <p>前単元では、我が国の自動車産業について学習し、産業のしくみやそのよさについて理解してきた。本単元では、環境問題、産業の発展、貧困について考え、我が国の産業の発展や持続可能な社会に関心をもつようにする。そのために、マレーシアの一つの村をモデルにして、その持続的発展を考える。SDGsについて5年生なりに理解し、社会や企業がその意識を持つ大切さから、自分も世界の一員であるという意識が芽生えるようにする。</p> <p>そのうえで、わたしたちは今の生活や将来どのような意識を持つことが必要かという思考力・判断力を身に付けさせたい。</p> <p>本時では、ウルスナガン・モンゴルバル村を貧困から抜け出す方法を考え、グループで話し合う学習を通して、課題に対する結論を導くことを目標とする。その中で、自分が考えたことと友だちが考えたことを統合して、多面的、多角的に問題を捉えることができるようにしたい。持続可能な社会の実現する考えを友だちと共有し、さらに世界全体に目を向けることができるようにしたい。</p>
✓ 児童/生徒観	
✓ 教材観	
✓ 指導観	

【4】展開計画（全4時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>ウルスナガン・モンゴルバル村の現状をフォトストーリーを通して予想する。</p>  <p>ウルスナガン・モンゴルバル村の現状について知る</p>	<p>写真を見て想像してみよう。 この村は・・・</p>    <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自然が豊か 森がある 虫や動物もいそう みんな仲良く 川で遊んでいる など</p> </div>  <p>実はウルスナガン・モンゴルバル村は・・・ 自然保護区の中にある村 かつてに開発できない。 自給自足の生活 現金収入はゴム採集、工芸品販売、 ホームステイ受け入れなど</p>	<p>写真</p> <p>ゴム採取用の鉋</p>
2	<p>持続可能な社会の実現（SDGs）の取り組み紹介 ミシュラン・ヤマハなどの企業の取り組みを知る。</p>	<p>持続可能な社会（SDGs）をめざしてどのような取り組みを進めているか 森林の保護 サプライチェーンの透明性 農業技術の改善、材料効率の向上 強制的な土地取引しない 地域社会の同意もとに責任ある管理方法で開発</p>	<p>写真 mundi「JICA A広報誌」20 17年9月号</p>
3 本時	<p>ウルスナガン・モンゴルバル村をモデルに持続可能な社会を維持しながら、貧困から抜け出す方法を考える</p>	<p>持続可能な社会をウルスナガン・モンゴルバル村で実現しながら、村が貧困からぬけだすためにはどうしたらよいか</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>くだものや野菜を売る そのために道路をよくする ゴムを使ったものづくり 働く場所を作る 観光に力を入れる など</p> </div>	<p>写真</p>
4	<p>自分たちの生活で持続可能な社会の実現のために取り組めることを考える。</p>	<p>自分たちの生活で SDGs と相反するものがないかを確かめながら、自分たちの生活の中で取り組めることを考える。</p>	

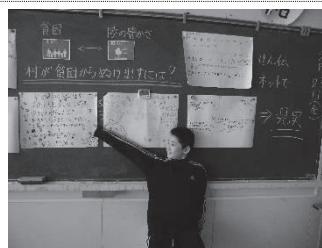
【5】 本時の展開			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	○村の現状について振り返る ホームステイなど国立公園の中にある村 かつてに開発できない 自給自足の生活 現金収入はゴム採集、工芸品販売、ホームステイ 受け入れなど でも収入は十分ではない		
展開 (15分)	○持続可能な社会をめざすために大切なことを振り返る。  1 貧困をなくそう	あてはまる SDG s について振り返らせるとともに、矛盾のない解決策を考えさせる。  15 陸の豊かさを守ろう	
	○課題を提示する 村が貧困からぬけだすためにはどうしたらよいかを考えよう くだものや野菜を売る。 そのために道路をよくする。 ゴムを使ったものづくり。 働く場所を作る。 自然が体験できる施設を作る 観光に力を入れる など	持続可能な社会をウルスナガン・モンゴルバル村で実現しながら、発展させる方法を考えさせる。 小グループで紙にまとめさせる。	模造紙に記入
交流 (10分)	○たがいの考えを見合う中で、認め合ったり、自分の考えに関連付けたりする。 「友だちの考えたアイデアで村が貧困から抜け出すのによいと思いに☆を自分と似てるもの同じものには◎を反対な考えには△をつけよう」	印をつけることで、交流を活発にさせる。	
発表 (10分)	○お勧めの考えや多く☆をもらった意見、△をもらった意見を確認し、印をつけた理由などを交流する 「どの考えがよかったかな」 「どうして印をつけたのかな」	相互評価することで自信をもって発表させる。	
まとめ (5分)	みんなでSDG s に合ったたくさんの考えを出すことができたね		
	○次時について見通しを持つ 「自分たちの生活の中で改善できる考えはないかな」	日本や自分たちの生活でも改善していくことができることに目を向ける	

【授業実践の様子】（本時での写真を添付し、キャプションをつけて下さい）



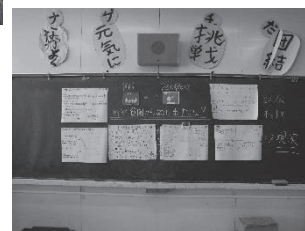
課題を把握する

グループでの話し合い



自分たちの考えを発表

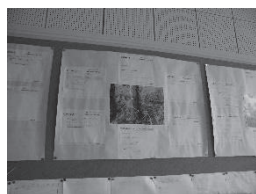
板書



【6】本時の振り返り

マレーシアの現状やSDGsの理解が十分でなかったため、本時では活発な意見交流ができなかった。前時までにもう少し学習を深めておけばよかった。その上で、「グループで考える→発表」ではなく、「グループで考える→意見を交流する→よりよい意見を作り上げる」という流れで行えば、授業がより盛り上がったと思う。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化



ウルスナガン・モンゴルバル村の写真を見た感想

「服を着ているから、貧しくはなさそう」「おのが日本のものとかちがう」「自然が豊か」「商売の盛んな村」「バナナやほかの果物がある」「日本の木と全然ちがう」「山奥に住んでいるので、買い物や学校に行くのがすごく遠い」「日本のものよりきれいなものもある」など。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

ウルスナガン・モンゴルバル村のことを学習したことによって、日本以外の国についての興味関心が高まった。日本のいろいろなことを学習しているときに、「マレーシアではどうなんだろう」とか、新聞を読んで「アメリカでは・・・なんだった」など外国での現状などにも興味関心が高まっている。また、日常の生活から「給食を残さない」「男女の差別をしない」など、SDGsにあった自分たちの生活や行動の改善を意識できるようになっている。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

（授業前）

途上国の生活について、具体的なイメージが持てなかった。たとえば、上下水道の整備や交通についての、世界における日本の特殊性にも実感が乏しかった。また、自分たちの今の生活の豊かさに対して感謝の気持ちを持つことも少なかった。異文化を軽蔑・軽視することも度々あった。

貧しい国や生活水準が日本ほど高くない国が多くあることはわかっているが、それについて真剣に考えたり、自分ごととして捉えたりすることはほとんどなかった。

（授業後）

途上国の生活が「遅れている」「貧しそうでかわいそう」という見方だけでなく、「緑豊かで子供たちが笑顔にあふれている」「自然豊かで、川で遊べるなんて楽しそう」など、マレーシアでなければ体験できないことや手に入らないものの価値についても気付くことができ、新たな生活観のようなものの見方ができるようになった。また、アイディア次第では、自分たちにも途上国への協力ができるのではないかと考えることができた。

【8】自己評価

<p>1. 苦労した点</p>	<p>様々な事象から、どの事象を教材化するかという選択に苦労した。ある程度、教材化するものを絞っていたにもかかわらず迷いが生じた。実際、現地研修を受けている中で良い素材にたくさん出会った。</p> <p>また、当初は天然ゴム生産について、5年生の工業の学習に関連させ扱うつもりだったが、子どもたちの自由な思考を引き出すことが難しいと考え、環境保護や経済発展とのバランスと村の発展について授業をした。</p> <p>しかし、マレーシアは発展途上国とは必ずしも言えない経済発展をしており、子どもたちは、マレーシアの経済状況があいまいなまま学習を進めていたような気がする。</p> <p>また、テーマ自体が5年生には難しいテーマだったようにも思われる。</p>
<p>2. 改善点</p>	<p>マレーシアの経済状況や実際の生活レベルなど、もっと丁寧に子どもたちと学習し、そのイメージがしっかりもてたところで、村でより良い暮らしをする方法を考えさせればよかった。貧困を脱却するというのではなく、村の生活の良さや日本との違い、そして私たち日本人の生活や経済活動について改めて考えさせるような授業にできればよい。</p> <p>また、技術的なことが許せば、オンラインで現地とつなげて、質問しながら授業を進めることができれば、より現地のことを知ることができたと思う。</p>
<p>3. 成果が出た点</p>	<p>自分の教材開発力が高まった。日常使っているものや、日本の文化など、帰国後、生活の中でも学習に生かすことのできない素材を見つける意識が高まった。教科書中心の授業ではなく、より身近なものについて考えさせる授業を心がけるようになった。</p> <p>また、日常の学習でも、結論ありきの授業ではなく、子どもたちに自由に考えさせ、その中でより良いものを見つけていく授業（問題解決型授業）を進めることができるようになった。</p>
<p>4. 備考（授業者による自由記述）</p>	<p>平成10年から3年間、マレーシアのクアラルンプール日本人学校に財団派遣されていた経験を持ち、帰国後も数回マレーシアを訪れている。その中でマレーシアは大変魅力ある国であると感じていた。</p> <p>しかし、今回の研修では、普通の旅行では、訪れることができないような場所や体験をさせていただき、よい教材開発をすることができた。</p> <p>特に、現地に派遣され活躍されている協力隊の方やJICAスタッフの方のお話は、その方々のかかわる支援活動に止まらず、マレーシアを理解する上でとても参考になるものだった。そして、研修をともにした皆さんのいろいろな視点は教材開発の示唆を与えてくれた。</p>

添付資料：ワークシート

学習したことをふりかえろう

名前 _____

自分が考えたこと

よいと思った友だちの考え

学習して思ったこと

ウルスナガン・モンゴルバル村

写真の番号 番

名前 _____

この村は・・・

写真を見て自分で考えてみよう

こんな村です

先生の話聞いて分かったこと

参考資料：

mundi「JICA広報誌」2017年9月号